

令和5年度 第151号

能登高だより

石川県立能登高等学校

927-0433 石川県鳳珠郡能登町字出津マ字106-7

TEL:0768-62-0544 FAX:0768-62-2935



ホームページ <https://www.ishikawa-c.ed.jp/notoxh/>

メールアドレス [notoxh@ishikawa-c.ed.jp](mailto:notoxh@ishikawa-c.ed.jp)

協力：能登高校を応援する会

### マルガージェラート

2月20日(火)にジェラート職人、柴野大造さんが来校され、生徒、職員にジェラートをいただきました。生徒はとても喜んで食べていました。



### トップアスリートとの交流、パティマさん来校

2月28日(水)の2、3限目にトップアスリートと交流しながら、自分を見つめ直す特別授業をNPO法人「カタリバ」の企画により実施しました。元ラグビー日本代表の畠山健介さん、元プロテニスプレイヤーの土居美咲さんなど6名のアスリートが参加してくれました。生徒はアスリートたちの経験談等を聞くことによって今の自分を見つめ直し、理想の自分に近づくために必要なことを考えることができました。



また、同日にタイの人権活動家パティマ・タンブチャクルさんが能登高校の水産教育の視察ため来校されました。5、6限目にはパティマさんによる講演会と交流会が行われました。パティマさんからは「違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業」の実態をお話していただき、その後私たちがIUU漁業でとれた水産物を買わない方法を皆で話し合いました。



## 第13回卒業証書授与式

3月1日（金）に第13回卒業証書授与式を本校の体育館にて挙行了しました。

送辞では在校生代表の佐藤来未さんが、「全員が支え合い励まし合いながら夢に向かって努力する姿を見て、私たちも1年後にみなさんのようになっていたいと強く感じた」、「必ず復興し、みなさんが築いてきた能登高校をより良いものにしていきます」と伝えた。

答辞では卒業生代表の山本龍之介さんが、クラスメイトや家族へ感謝を伝えるとともに、後輩たちに「やること一つ一つに全力を尽くしてください」、「高校生活、最高の仲間と悔いのないように過ごしてください」とメッセージを送りました。



そして卒業式後、能登高校魅力化プロジェクトからのプレゼントとして歌手の一青窈さんによるサプライズコンサートが開かれました。一青窈さんからステージで代表曲の「もらい泣き」や「ハナミズキ」を披露していただきました。さらに、能登高校の校歌も歌ってくださり、その後全校生徒と一緒に歌いました。



## 書道部

3月11日（月）にキャンドル・ジュンさんが代表をしている復興支援団体「LOVE FOR NIPPON」が主催している、「3.11 夢の大凧あげ」と題したイベントに書道部が参加しました。これは、東日本大震災の追悼復興イベント「SONG OF THE EARTH 311」の一環として毎年開催されているものです。大凧には福島県の広野町で栽培されているバナナの茎を原料とした和紙を使用しており、「甦る能登」、「起死回生能登半島」と書かれた大凧を上げ能登の復興を願いました。

このイベントに参加した書道部の生徒たちに感想を書いてもらいました。

東日本大震災から13年を迎える福島に行き、未曾有の大災害から一歩ずつ前に進んでいる町の様子を自分の目で見る事ができました。そして、福島空に、書道部員、卒業した先輩方の思いを書いた凧をあげていただきました。この凧が能登で被災した方や東日本大震災で被災した方の勇気や希望になってほしいと思います。（橋本 紗奈）

福島での様々なイベントを通して、東日本大震災の怖さ、大好きな町を復興させようという福島の人達の思いが伝わってきました。今回、私達があげた凧を通して、被災して暗い気持ちになっている能登の人達が前を向くきっかけになってもらえれば良いなと思いました。（府中 垂澄）

能登半島の13年後への期待を込めて、能登から福島まで10時間かけて行ってきました。福島に着くと建物はあまりなく、正直13年たっても元通りにならないんだと悲しかったです。でも、福島の方々は私たちを笑顔で迎えてくれ、他にも町に人を迎えるために大きな企画を考える企業の人や、町に明かりを灯すジュンさんがいたり、再生のためにまだまだ沢山の人が頑張っているのを目にしました。私も書を通して、沢山のの人に希望を届けたいと思いました。（府中 美音）

3月11日14時46分の黙とうの後、凧あげが行われました。自分たちの素直な気持ちを書いた凧を福島空に揚げる事ができ、嬉しかったです。能登と福島が繋がった感じがして心が温まりました。（山城 杏友）



## ドルトン東京学園との交流

3月12日（火）～14日（木）に総合的な探究の時間の一環として生徒7名がドルトン東京学園の方々と交流しました。生徒達は地震で見えた課題や震災経験などを発表し、ドルトン東京学園の生徒に現地の様子や被害の大きさなどを伝えました。



## Colabo カフェ

3月12日(火)にNPO法人Colaboが再び能登高校に支援物資を届けてくださいました。今回は女子生徒だけでなく男子生徒にも支援物資をいただきました。ありがとうございました。



## 高校入試合格発表

3月14日(木)正午、本校職員玄関前に合格者番号が掲示されました。推薦入試、一般入試合わせて、普通科31名、地域産業科38名が合格しました。4月からいっしょに学校で学んでいけることを楽しみにしています。



## 地域みらい留学365 第3期生 修了

4月に在籍校に帰ってしまう留学生3人から能登高生へのメッセージをいただきました。

### 横浜修悠館高校 笹川 真奈実

能登半島地震で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。私は能登に留学中、たくさんの方にお世話になりました。地域魅力化コーディネーターの木村さんをはじめ、能登高校の先生方、地域の方々など、たくさんの人の支えがあってこの留学は成り立っていました。本当に感謝しています。これからどんな人生が待っているのか、能登に留学したことがどんな影響を与えるのかは私にはわかりません。しかし、私は能登に留学して良かったと思っています。これからも、自分らしく前に進んで行こうと思います。皆さん、本当にありがとうございました。



### 横浜翠陵高校 市川 貴代

まずはお世話になった地域の皆様には感謝を伝えたいです。1年間本当にありがとうございました。サップから見た日本の一面の景色や、よばれて家々をまわって弾かせてもらった三線の音色、ホームステイ先ではあばれ祭で習った笛太鼓等が一生忘れられない思い出になりました。そしてこの度の震災に対し、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。自分は総探で取り組んでいた、5月の地震の影響で経営難になった旅館の活性化がこの地震によりできなかったことが心残りです。能登半島の1日も早い復興をお祈りしております。



### 山脇学園高校 吉田 葵

私は環境を大きく変えてみたい、たくさんの写真を撮りたいと思いこの留学を決めました。あばれ祭に参加したり、放課後に夕日を見に行ったり、球技大会や体育祭の写真を撮ったり、挙げるとキリがないほどの思い出を作れて本当に幸せです。この留学での出会いを大切にこれからも能登と関わりを持ち続けられたらいいと思います。地域の大人の方、学校の先生、友達、本当にたくさんの方に支えてもらい大きく成長できた1年でした。改めて1年間本当にありがとうございました。



## 現在の復旧状況(3月19日現在)

上水道は配管の一部にわずかな漏れがあるものの、水が使えるようになりました。また、3月1日(金)に手洗いスタンドWOTAを2器設置していただきました。この機械は水道いらずで、使用した水の98%以上を再生処理し、循環利用することで、水を何度も繰り返し使えるものとなっています。

### 今後の予定

4月8日(月)には入学式を行う予定です。

